

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H03437

研究課題名（和文）植民地期朝鮮における女教師の生成と役割に関する研究

研究課題名（英文）Research on women' teachers in colonial Chosen

研究代表者

朴 宣美（Park, Sunmi）

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：80455914

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,700,000円

研究成果の概要（和文）：今回の研究を通して、19世紀末から植民地期を通して活動した、欧米からの女教師（主にキリスト教プロテスタント教派からの女性宣教師）、日本人女教師、朝鮮人女教師という三部類の女教師について明らかにすることができた。

まず、女教師の実態をはじめ、彼女たちを送り出した欧米や日本における女子教育の状況について分析した。女教師たちが残した手紙、報告書、雑誌記事などを分析して、彼女たちの女子教育観を明らかにした。慶尚道で欧米女性によって設置された女子学校を中心に女子生徒の意識や卒業生の活動について明らかにした。最後に朝鮮人女教師は学校を超え、地域社会で行った活動などについて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

朝鮮の女教師に関しては断片的な研究しかない中、本研究は、三部類の女教師（欧米女性、日本人女性、朝鮮人女性）の実態と役割について明らかにした。また、19世紀前半から欧米で普及した女子教育によって養成された欧米女性が朝鮮などアジアで女子教育を実施し、女教師を養成した歴史を通して、一国内の研究で女教師の成立を明らかにする従来の主な研究のスタイルから脱皮し、欧米とアジア、日本とアジアという視野からその生成と役割を分析した。

近現代の女性の生活と意識は、女子教育の普及の結果であることから、社会にむけ女子教育や女教師の歴史について知識を広め、理解を深めることにその社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：Through this research, we analyzed three types of female teachers who taught at girls' school in Chosen from the end of the 19th century through the colonial period. Three types of female teachers were Western women (mainly women missionaries from protestant church), Japanese women, and Korean women. We analyzed the development of girls' education in Western and Japan which sent female teachers to Chosen. By analyzing letters, reports, and articles written by western and Japanese female teachers, we clarified their views on girls' education. Focusing on girls' schools established by Western women in Gyeongsang Province, We clarified the awareness of female students and the activities of graduates. Finally, We analyzed the Korean female teachers who worked for community resident beyond girls' schools.

研究分野：近現代日韓文化文化交流史

キーワード：女子教育史 社会教育史 ジェンダー史 女性宣教師 日本人女教師 朝鮮人女教師 植民地教育史

## 1. 研究開始当初の背景

19世紀半ばから少なからぬ女性たちが、多様な立場から国や地域を超え「外」へ渡った。朝鮮はこうした現象の中心にいた女性、すなわち「外」から渡ってきてまた「外」へ帰っていく女性(欧米女性と日本女性)、「外」(日本、アメリカ)へ渡った後、「外」から戻ってくる女性(朝鮮女性)の集散地だった。その中心にアメリカ女性宣教師、日本人女教師、朝鮮人女教師たちがいた。このように、植民地期朝鮮における女性教育は、その内部に複数の文化的要素、複数の文化集団に属する人々、複数の言語が併存するという独特な状況が生まれていた。女性教育の実像やそれによる朝鮮社会の変化を明らかにするためには、こうした女教師たちの実態を比較し、また総合的に捉えなければならない。

しかし、植民地期朝鮮における女教師は、アジア教育史研究や、近代化が女性に及ぼした影響を取り上げるジェンダー史研究において、個別的かつ断片的にしか論じられてこなかった。本研究は、ジェンダー史、社会文化史、教育制度史、社会教育史、教科教育史という多様な学問的背景を持つ朝鮮近代史の研究者たちが集まって、植民地期朝鮮における女教師の全体像を明らかにしようとしたものである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、植民地期朝鮮における女教師の生成と役割を明らかにすることである。具体的には次の3点を課題とする。一点目、欧米からの女性宣教師、日本人女教師、朝鮮人女教師がいかに養成されたかを明らかにする。二点目、朝鮮におけるこれら女教師たちは、女性主義(社会と国家における女性の役割)、帝国主義、民族主義に対してどのような認識を持ち、それぞれいかなる役割を果たしたかを比較検証する。三点目、これら女教師が重層的に重なり合う釜山地域を対象に、女教師や女性教育の変化を具体的に分析する。

## 3. 研究の方法

欧米の女性宣教師に関して、宣教師関係資料(各女性宣教師たちが所属した海外伝道組織の年次報告書、会議議事録、機関紙など)をはじめ、彼女たちの書簡、日記などを分析する。日本人女教師に関しては、校友会誌や同窓会誌、朝鮮総督府の『学校一覧』、『文教の朝鮮』『朝鮮』など朝鮮で刊行された教育雑誌、『新女性』(朝鮮)、『女学雑誌』(日本)などの雑誌記事より分析する。朝鮮人女教師に関しては、朝鮮総督府の資料と共に教育雑誌や女性むけ雑誌記事などから分析する。

釜山(慶尚南道)を中心に地域調査を行う。釜山は、19世紀末から在朝鮮日本人社会が形成され、日本人女子生徒の教育(初等教育や中等教育)も早い段階から始まった。また、女子ミッションスクールも19世紀末に設立され、釜山地域における中心的な女子中等教育機関としての役割を果たした。1920年代後半には公立の朝鮮人女子中等教育機関も設立され、女子教育の拡大に貢献した。このような多様な形態の女子教育が展開された釜山地域に対する研究は立ち遅れており、本研究では、東萊女子高等学校(植民地時代の東萊高等女学校、オーストラリア長老派の女性宣教師が設立したミッションスクール)を中心に学校調査(学院所蔵の宣教師資料、学籍簿、写真など)を行い、また植民地時代のこの地域の新聞などを調査し、女子教育実態について検証を加える。

## 4. 研究成果

### 4-1 欧米からの女教師(プロテスタント女性宣教師)

19世紀半ばから普及した女子中等教育・高等教育を受けた欧米(特にアメリカ)女性たちの多くは、教師や宣教師となった。それは、当時、大学出の女性たちの職業が限られていたからであり、19世紀半ばからアメリカやイギリスを中心に女性たちによる海外伝道運動が盛り上がるなか、とりわけ高学歴の女性たちが宣教師を志望したからでもあった。とりわけ、アメリカにおける女子中等教育や女子高等教育の発展は、朝鮮をはじめ世界における女子教育の普及へとつながった。

最初に朝鮮で女子教育を実施したのは、アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会(Woman's Friend Missionary Society of the Methodist Episcopal Church)から派遣されたスクラントン(M. F. Scranton)である。彼女は、1886年に梨花学堂を漢城に開設したが、それが朝鮮における女子教育の始まりである。次いでアメリカ北部長老教会海外女性伝道協会のエラーズ(A. J. Eilers、1886年に派遣)は、1887年に漢城で貞洞女学堂を開設した。1891年にオーストラリア・ヴィクトリア長老派教会(the Presbyterian Church of Victoria, Australia、通称、オーストラリア長老派教会)のヴィクトリア長老派教会女性宣教師連合会(Presbyterian Women's Missionary Union of Victoria)から送り出された3人の未婚の女性宣教師(B. Menzies, J. Perry, M. Fawcett)は、1893年に慶尚南道釜山で日新女学校を設置した。1898年にアメリカ南部メソジスト監督教会海外女性伝道協会(Woman's Foreign Missionary Society、

Methodist Episcopal Church, South) のキャンベル (J. P. Campbell) によってソウルでカロライナ学堂が開かれた。カナダ長老派教会女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada) は、1899年にフット (E. Foote) を朝鮮に送り、彼女は、同年、咸鏡南道元山で女子教育を始めた (後に、進誠女学校)。最後に、米国南部長老派教会海外伝道局 (The Executive Committee of Foreign Missions, Presbyterian Church, U.S.) のテイト (M. S. Tate, 1892年に派遣) は、1902年に全羅北道全州で紀全女学校を開いた。

このように、1886年から1902年にかけて欧米のプロテスタント教派の女性宣教師は、朝鮮で女子教育を開始し、それ以降、高等教育を受けた未婚の女性宣教師たちが多く送られ、彼女たちによってミッションスクールが新設されるか、すでに開設されていたミッションスクールが発展していき、植民地期を通して女子教育の一端を担った。

ここでは、アメリカ南部メソジスト監督教会海外女性伝道協会 (WFMS-S と略す) から朝鮮に送り出され、女子教育に携わった人たちのプロフィール (出生年度、学歴など) を分析し、どのような欧米女性が朝鮮で女教師として活動したかについて見てみる。

まず、朝鮮で WFMS-S の女性宣教師として女子教育にかかわった人たち (おおよそ 27 人) のうち、プロフィールの調査ができた 15 人をグループ化する。このグループ化は、19 世紀後半から 20 世紀初期にかけてアメリカにおける女子高等教育の形成と展開を分析したバーバラ・M・ソロモンの研究を基にして行った。

第 1 グループは、1870~80 年代に中等教育を受けた女性宣教師たちである。アメリカにおいて 19 世紀前半にフィーメール・セミナリーやフィーメール・アカデミーを中心に女子中等教育が拡大した。こうした中等教育を受けた彼女たちは、1880 年代末か、1890 年代初期に宣教師となった。

第 2 グループは、大体 1870~1880 年代に生まれ、1890 年代から 1900 年代に急速に広がった女子高等教育を享受した人物たちである。彼女たちは 1900 年代から 1910 年代初期にかけ宣教師となって朝鮮に渡った。第 3 グループの女性宣教師は、おおよそ 1890 年代以降に生まれ、高等教育を受ける女性が急増する 1910 年代以降に大学教育を受けたのち、1910 年代末から 1920 年代に宣教師として朝鮮に派遣された。

第 1 グループの女性宣教師 (2 人) は、3 校の女子学校 (カロライナ学堂、開城女学堂、樓氏女学校) を開設した。特にカロライナ学堂の設立者であるキャンベルは、長期間に校長として勤めた。第 2 グループの女性宣教師 (11 人) は、第 1 グループの女性宣教師がはじめた女子学校を発展させた。

第 3 グループの女性宣教師 (2 人) は、1920 年代に朝鮮に派遣され、英語、音楽などを担当した。第 1 グループと第 2 グループの女性宣教師たちは、WFMS-S の女子学校を設立し、地域の私立名門女子校としての確固たる地位を築こうと活躍したとすれば (例えば校舎の新築・増築、高等科設置、教科改正など)、第 3 グループの女性宣教師たちは、WFMS-S の女子学校が朝鮮総督府の認可を受けるに必要とされた教師 (資格を持つ) として教育の充実化を図った。

要するに、WFMS-S 女性宣教師の一部 (第 1 グループ) は、19 世紀前半にアメリカで広がった女子中等教育を受けた人で、残りの大多数 (第 2・3 グループ) は、19 世紀後半に普及しはじめ、20 世紀初期に拡大されていった女子高等教育を受けたのち、朝鮮で女子教育を行った。第 2 グループの中には、アメリカで教師の経験を積んだのちに宣教師となった人も何人かいる。

#### 4-2 朝鮮人女教師の社会教育活動

当時女教師の学校外での活動、つまり社会教育活動は、公立普通学校教員のみならず、高等女子普通学校やミッション系の私立女学校のような中等及び高等教育機関に勤める女教師も多く行っていた。とくに、朝鮮人女教師は不就学児童や婦人たちのための夜学や講習書における識字教育をはじめ、新聞や雑誌への執筆活動、講演等を通じた女性向けの啓蒙活動も広く展開していた。このような活動は三・一運動以後多く組織された各種の女性団体を中心に行われたが、その主要メンバーの大半は近代学校教育を受けたエリート層の女性たち、いわゆる「新女性」であった。

基本的な方針として女子児童の教育にあっていた女教師は、地域住民の社会教化においても女性を対象とする活動を担当していたとみられる。公立普通学校で主婦や婦人向けに各種の講習会を実施することは全国各地で広く行われており、その教育は女教師に主に任されていた。また、女教師は女子児童への就学奨励も行っていたことが当時の新聞記事から確認できる。さらに、「公立普通学校の卒業生に対し学校が勤労的訓練を与へる」(松月、1939: 369) ために 1927 年から始まった「卒業生指導」という施策も公普校の教師がその任務を果たしていた。女教師たちは、学校教師をしながら、一方で女性教育や啓蒙運動に取り組むため、様々な女性関連団体を組織して女性運動を展開していくが、1920 年代初めの主な女性団体としては朝鮮女子教育会 (1920 年)、泰和女子館 (1921 年)、朝鮮女子青年会 (1921 年)、朝鮮女子基督教青年会 (1922 年)、女子苦学生相助会 (1922 年) などがある。その主な活動は、講演や執筆活動をはじめ、女性教育のための夜学・講習所、婦人講座、女性運動家の養成、さらに学校の設立などへと発展していく。

植民地期にいわゆる「新女性」と呼ばれていた女教師の主な社会活動としては、先述した学校外での識字教育及び啓蒙活動のほかに、より短期間で広く影響が与えられる執筆活動も挙げる

ことができる。その内容は、教育をはじめ、経済、文化、芸術（美術や音楽）、衛生・健康、育児、結婚・恋愛など多岐にわたる。執筆活動は、1920-30年代に多く見られるが、長い時は約1か月にわたって各界で活躍している新女性の記事を新聞で連載を組んでもいる。

#### 4-3 釜山・慶尚南道における女子教育の展開

女子教育機関は、女教師の活動の場であり、卒業生が教師となる女教師生成の場であるが、植民地期における女子教育の普及については、初等教育でさえ非常に限定的であったことは周知の事実である。そうした中でオーストラリア長老派教会による女子教育事業は、幼稚園・初等学校・中等学校・「実修学校」・講習所までの多様な分野で行われていたことが明らかになった。

オーストラリア長老派教会によって女子教育事業が行われた地域としては、(1)釜山地域を中心地として、(2)旧觀察府所在地であり植民地期は1925年まで道庁所在地であった晋州、(3)地域の中核都市馬山、(4)海岸部の統営、(5)全羅南道と慶尚北道に接する内陸部の居昌までを含む、慶尚南道の南側から西側の地域にあたる広い領域において行われた。ただし、これら5つの地方都市は、隣接する都市と約40~50キロ程度で結ばれる距離に位置していたことから、教育活動における相互のネットワークの成立も十分可能だったことも注目される。なお、基督教の宣教活動が一般的に布教・教育・医療が三本柱とされるが、オーストラリア長老派教会もこうした活動を行い、晋州において財団法人理事7人のうちの一人である医師によって病院が運営されていた。晋州には理事として宣教師がもう一人在住していることから、晋州が釜山地域に次ぐ同財団のもう一つの活動拠点だったとみられる。

その中で、釜山地域での教育活動の歴史が最も古く、釜山鎮で1895年から釜山鎮日新女学校として初等教育を開始させ、1909年には中等教育課程（「高等科」の設置）まで拡大させた。そして、1925年には中等教育機関を独立させる形で東萊面に9033坪の校地に265坪の2階建て新校舎を建築し東萊日新女学校をスタートさせている。同校の施設としては、2階建て寄宿舎（162坪）および校長の舎宅（26坪）も備わる、大規模なものであった。釜山地域における教育はこれ以降、初等教育は従来からの釜山鎮（釜山鎮日新女学校）で行い中等教育は東萊面（東萊日新女学校）で行うという、2カ所・2校体制がとられた。なお、東萊日新女学校は、1933年4月に指定学校として認定されている。同校は学校種別から言えば、女子高等普通学校（官・公・私立）とは区別される、私立各種学校であったが、指定学校化することで例えば上級学校に進学する際に女子高等普通学校卒業と同等の資格が認められることになった。このことは、同校の地域における教育機関としての役割などその社会的性格を考える上で重要だと思われる。

こうした釜山地域での活動で、校長はオーストラリア人女性がつとめた。2校体制以後であれば、釜山鎮日新女学校が及び東萊日新女学校はデイビス（Davis、最終学歴メルボルン大学卒）とウィザース（Withers）であった。教員数は釜山鎮日新女学校が7名中女性は5名おり、東萊日新女学校が13名中女性は5名だった（1934・35年数値）。

いつ、どのような教育機関に教師として赴任したかについての本格的な調査は今後の課題である。ただし1937年には、東萊日新女学校の教員となった卒業生の存在が確認できたことは重要である。生え抜き教員の輩出であり、同校の中等教育機関としての教育レベルや教育機関としての安定的運営を明らかにするものである。

#### 4-4 東萊高等女学校における女子生徒

東萊高等女学校はオーストラリア長老派教会宣教会が1895年に創立した私立の女学校であったが、1939年に朝鮮総督府の神社参拝強要に反発して教育から撤廃した。翌年の1940年に朝鮮の民間財団が経営を継続し、無宗教の朝鮮人生徒が入学した。

創氏改名は朝鮮人に氏を強制するものであり、朝鮮独自の姓をなくし、日本的な家父長制に改編するものであった。先行研究では、改名は任意で行われ、そのままの朝鮮の名を残し、日本人との差異化を示すものとされた。しかし、京城に住む一部の朝鮮人女性は創氏改名以前の1930年代より日本人風の「子」を名につけており、これは当時の日本人女性の名の流行に従ったものであった。こうした状況の中で1940年より創氏改名の政策が行なわれ、東萊高等女学校では半数近くの女学生が改名を行っていた。朝鮮人女学生にも日本人風の名をつけることが拡大し、「子」の比率も高くなっていく。この時に改名をせずに朝鮮の名であった女学生の中には、学校での親しい友人の間で日本人風の名で呼び合うという状況が一部の学籍簿に記録されていた。これは、家長の反対により日本人風の名が妨げられた場合、限られた親密圏の中で女学生が日本人風の別名・ニックネームを自ら選択するという、植民地権力への「自発的」同意とも推測される動きであった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 朴宣美	4. 巻 49
2. 論文標題 朝鮮におけるカナダ女性宣教師と女子教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 320
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 朴宣美	4. 巻 51
2. 論文標題 植民地朝鮮におけるアメリカ南部メソジスト監督教会海外女性伝道協会による女子教育	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 2744
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 朴宣美	4. 巻 48
2. 論文標題 オーストラリア長老派教会朝鮮ミッションと女子教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 70-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 古川宣子	4. 巻 21
2. 論文標題 東萊日新女学校の指定学校化 1920年代後半を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大東アジア学論集	6. 最初と最後の頁 5767
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川宣子	4. 巻 20
2. 論文標題 慶尚南道における豪州長老会の活動状況 植民地期『事業報告書』資料について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大東アジア学論集	6. 最初と最後の頁 5562
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川宣子	4. 巻 60
2. 論文標題 東萊日新女学校研究 1927年在学生を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大東文化大学紀要<社会科学>	6. 最初と最後の頁 231238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川宣子	4. 巻 58
2. 論文標題 慶尚南道における近代女子教育の展開 日新女学校の事例研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大東文化大学紀要	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李正連	4. 巻 14
2. 論文標題 植民地期朝鮮における女教師の社会教育活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯学習・キャリア教育研究	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴宣美	4. 巻 46
2. 論文標題 朝鮮に渡ったアメリカ・プロテスタント女性宣教師 アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 103126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴宣美	4. 巻 47
2. 論文標題 戦前の東アジアにおけるアメリカ人女性による女子高等教育 アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会 (WFMS)の活動を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 筑波大学大学院人文社会科学部研究科歴史・人類学専攻『歴史人類』	6. 最初と最後の頁 54-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李正連	4. 巻 14
2. 論文標題 植民地期朝鮮における女教師の社会教育活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯学習・キャリア教育研究	6. 最初と最後の頁 2741
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李正連の他、小玉亮子、井上恵美子、野々村淑子	4. 巻 なし
2. 論文標題 「ジェンダーと教育」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育史学会60周年記念出版編集委員会編『教育史研究の最前線 創立60周年記念』六花出版	6. 最初と最後の頁 175-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國分麻里	4. 巻 63
2. 論文標題 朝鮮人女学生と改名 1940～1945年の東萊高等女学校を中心として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の教育史学	6. 最初と最後の頁 7587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 國分麻里
2. 発表標題 朝鮮人女学生と改名 - 1940～1945年の東萊高等女学校を中心として -
3. 学会等名 教育史学会第63回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 國分麻里
2. 発表標題 学校100年史から見る朝鮮人児童の創氏改名
3. 学会等名 アジア教育史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴宣美
2. 発表標題 オーストラリア女性宣教師と朝鮮の女子教育
3. 学会等名 アジア教育史学会大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 朴 宣美
2. 発表標題 東アジア近代女性高等教育
3. 学会等名 梨花女子大学校史学科未来力量育成事業国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 李正連	4. 発行年 2022年
2. 出版社 博英社	5. 総ページ数 373
3. 書名 植民地朝鮮における不就学者の学び～夜学経験者のオーラル・ヒストリーをもとに～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	國分 麻里 (Kokubu Mari)  (10566003)	筑波大学・人間系・准教授  (12102)	
研究分担者	古川 宣子 (Hurukawa Noriko)  (20307143)	大東文化大学・国際関係学部・教授  (32636)	
研究分担者	李 正連 (Lee Jeongyun)  (60447810)	東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・准教授  (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------